

令和3年度（第2回）山鹿市総合教育会議 議事録

日 時	令和3年8月20日（金）10時00分
場 所	山鹿市役所（4階401会議室）
出席者	早田市長 堀田教育長 教育委員：野中委員、上田委員、野口委員、立山委員 市職員：大林総務部長、渡邊教育部長、園田教育部次長、村上首席教育審議員、佐藤教育総務課長、田崎学校教育指導室長、山西学校教育指導室審議員、西浦学校教育指導室審議員、西島学校施設課長兼学校規模適正化推進室長、井上社会教育課長、栗原社会体育課長、豊田子ども課長、中満教育総務課長補佐、堀社会教育課長補佐、古川社会体育課長補佐、原口子ども課長補佐、徳永教育総務課総務企画係長、江崎主事
傍聴者	なし

- 1 開 会
- 2 議 題
 - 山鹿市教育大綱の策定について
 - ①SDGsについて
 - ②第2次山鹿市総合計画後期基本計画（案）について
 - ③教育大綱の素案について
- 3 その他
 - (1)次回開催について
 - (2)その他
- 4 閉 会

発言者	発言内容
徳永教育総務課総務企画係長	<p>令和3年度第2回山鹿市総合教育会議を開催します。</p> <p>開会に際しまして、議題と会議の公開の可否について確認します。</p> <p>本日の議題は、「令和3年度からの山鹿市教育大綱の策定について」となっております。</p> <p>この議題につきましては、非公開とすべき事由がないことから、本日の会議、及び議事録につきましては公開といたします。</p> <p>また、会議の時間は、市長の公務もごございますので、午前11時00分には終了したいと思っておりますので、ご協力の程よろしく申し上げます。</p> <p>なお、本日の傍聴者の方はおられません。</p> <p>それでは議題に入ります。早田市長に会議の議長をお願いします。</p>
早田市長	<p>本日は、教育委員の皆さま方におかれましては、足元の悪い中、お集まりいただき誠にありがとうございます。</p> <p>本日の議題は、前回に引き続き教育大綱の策定となっております。</p> <p>前回の会議でも、皆様方からいろんなご意見をいただきました。特にSDGsの話については、私もなるほどと思ったところです。</p> <p>また、人権についても職員と話をしましたが、SDGsでも人権に関する内容が含まれています。これに関しては、特段に表に出してやったほうが良いと話をしました。その点も委員の皆様にご検討いただければと思っております。それは、なぜかと申しますと、選挙の時に好きな言葉として、「人種の色と血の境、我が立つ前に差別なし」という言葉を公表させていただきました。これは、我々、日本人も国際的な社会に入っていくということで、いかなる民族であろうと、どんな国の境界であろうと、己が果たす使命の前には一切区別をしないという内容です。</p> <p>そういうことで、是非、人権についても議論をしていただきたいと思います。</p> <p>それでは、議題の項目①～③については関連がございますので、続けて説明をお願いして、その後に委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。</p> <p>①SDGsについて事務局より説明をお願いします。</p>
佐藤教育総務課長	<p>教育総務課です。</p> <p>別添資料の持続可能な開発目標と日本の取り組みというカラー刷りの資料をお願いします。</p> <p>本件につきましては、前回の会議において、SDGsが何なのか共通理解をというご指摘がありましたので、その概要資料を配布させていただいております。</p> <p>1ページをお願いします。</p> <p>まず、SDGsとは、誰一人取り残さない、持続可能でより良い社会の実現を目指す世界共通の目標であります。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されています。</p> <p>次に、SDGsの構造として、17のゴールは大きく3つに区分され、一つ目に、貧困や飢餓、教育など未だに解決を見ない社会面の開発項目、二つ目に、エネルギーや資源の有効活用、働き方の改善、不平等の解消などの経済項目、及び三つ目に、地球環境や気候変動など地球規模で取り組むべき環境項目、といった世界が直面する課題を網羅的に示し、持続可能なより良い未来を築くことを目標としています。</p>

	<p>SDG s 達成のカギは、一人ひとりの行動に委ねられています。</p> <p>2 ページをお願いします。</p> <p>持続可能な開発目標SDG s の詳細として、ご覧の 17 の項目を掲載しております。内容についてはご覧のとおりです。</p> <p>なお、もう一つの取り組みであるESDにつきましては、持続可能な開発のための教育とされております。資料は配布していませんが、ESDとは、現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組むことで、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動です。つまり、ESDは持続可能な社会の創り手を育む教育とされています。</p> <p>このような中で、ESDは、2 ページに示すSDG s 目標 4 の教育、すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する、のターゲットに位置付けられています。また、ESDはターゲットの一つということだけではなく、SDG s の 17 全ての目標の実現に寄与するものであることが国連総会において確認されています。</p> <p>3 ページから 6 ページまでは、参考までに取組例を記載しています。</p> <p>8 ページをお願いいたします。</p> <p>鹿北中学校版SDG s でございますが、鹿北中学校では持続可能性をキーワードに鹿北版SDG s 行動宣言を提案し、その実践のための 17 の目標を設定し、取り組まれています。鹿北中バージョン 17 の目標を下段に示し、次の 9 ページをご覧くださいますと、SDG s の目標を左の欄に示し、それを基に、右の欄に鹿北中学校版をご覧のように設定し、取り組まれています。10 ページから 11 ページは生徒個人の行動宣言事例です。</p> <p>12 ページをお願いいたします。</p> <p>菊鹿中学校の学校だよりにおいて、学校での様子や取り組みを各家庭及び地域などに配信する中で、その内容はSDG s の認知度を上げるとともに、周知を図られているところでございます。</p> <p>説明は以上です。</p>
早田市長	次に、②第 2 次山鹿市総合計画後期基本計画（案）について、総務部長から説明をお願いします。
大林総務部長	<p>第 2 次山鹿市総合計画後期基本計画（案）についてご説明いたします。</p> <p>まず、第 2 次山鹿市総合計画の性格と位置づけについてご説明します。</p> <p>2 ページの 1、計画策定の背景で触れておりますが、同計画は、長期的な展望のもとに本市の将来像を描き、市政運営の基本方針を示すとともに、その実現に向けた施策や事業を総合的かつ体系的にまとめたもので、本市が策定する各種計画の最上位計画に位置付けられています。</p> <p>計画期間は、平成 28 年度から令和 7 年度までの 10 年間で、前期 5 年、後期 5 年に分かれており、今回策定した後期基本計画は、令和 3 年度から令和 7 年度までの計画となります。</p> <p>3 ページをお願いいたします。</p> <p>本市の将来人口推計でございます。令和 2 年度末の住民基本台帳人口は 51,324</p>

	<p>人でしたが、昨年10月1日基準で行われた国勢調査では49,082人となり、合併時の平成17年国勢調査人口が57,726人でしたので、国勢調査同士を比較した場合、8,644人減少しています。近年は出生数も400人を切った状況が続いておりまして、特に20代の若者の転出による社会減が顕著なものとして表れております。</p> <p>総合計画では総合戦略の人口政策と経済政策も取り込みながら、持続可能な街づくりにかかせない施策、事業を展開することとしております。</p> <p>次に、計画の構成についてご説明します。7ページをお願いします。</p> <p>第2次山鹿市総合計画では、本市の将来都市像を、人輝き飛躍する都市（まち）やまがと定め、人と自然・産業・歴史文化が響き合うまちづくりをスローガンに掲げています。これは後期基本計画でも変更はございません。</p> <p>11ページから12ページをご覧ください。将来都市像の実現に向けて、5つの基本目標をたてています。これは8ページにある人を創る、経済を創る、住み続けたいまちを創るというまちづくりの基本姿勢を踏まえたものです。</p> <p>もう一度11ページにお戻りください。将来都市像と5つの目標部分は基本構想と呼ばれるもので、前期計画スタート時に議会の議決をいただいております。</p> <p>本題の後期基本計画は、2つの柱で構成しています。第1の柱が先導施策と呼ばれるもので、山鹿市ならではの課題解決のために、市民、行政、民間が協働で取り組む施策のことです。5つの施策があり、早田市長の市政方針やマニフェストが反映された施策となっています。もう一つの柱は、自治の基盤を支える基礎的な行政サービスからなる基幹施策です。各部署が独自の目標をたてて実施していくもので、全ての行政分野を網羅しています。</p> <p>なお、先導施策と基幹施策の関係は、総合計画を2階建ての家に例えると、基幹施策が1階部分、先導施策が2階部分とお考えいただければわかりやすいと思います。</p> <p>15ページから28ページにかけましては、後期基本計画において教育部の施策、事業と関係があると思われる箇所を抜粋しております。</p> <p>説明は以上です。</p>
早田市長	<p>次に、③教育大綱の素案についてですが、私の思いと、これまでの皆様のご意見を基に、基本理念（案）と4本の基本方針（案）をたたき台として出させていただきました。</p> <p>事務局より説明をお願いします。</p>
佐藤教育総務課長	<p>教育大綱の素案ということで、ご説明いたします。</p> <p>先ほど、ご案内のとおり第1回の総合教育会議において、早田市長の思いを述べていただき、委員の皆様との意見交換を行ったところでございます。その後、「これまでの大綱をベースに市長の考えを入れたときにどうなるのかを考えていただければ」という市長の思いを基に、これまでの各委員等からのご意見を参考にし、再度市長のご意見を伺いながら、前回までの学校教育に特化した項目から枠を広げ、総合計画との整合性を含め、教育部全体で協議を進めさせていただきました。</p> <p>その結果として、あくまでもたたき台の教育大綱素案として、今回提案させていただいたところでございます。</p> <p>まず、基本理念としまして、「古人（いにしえ）に学び、未来へはばたく、互い</p>

	<p>に感謝し、支え助け合うやまがびと」としております。</p> <p>次に、4つの基本方針による構成とし、基本方針Ⅰは「ふるさと山鹿の創造」です。郷土を理解し、地域で育み、新しい文化を創造する教育を目指します。</p> <p>基本方針Ⅱは、「一人ひとりが輝く教育」です。受け継がれてきた、かけがえのない「命」を輝かせる教育を目指します。</p> <p>基本方針Ⅲは、「世界にはばたく人材の育成」です。持続可能な社会の実現に向け、世界を視野に主体的に行動する人材の育成を目指します。</p> <p>基本方針Ⅳは「共に学び、共に励む教育」です。さまざまな連携により「個」「社会全体」の生涯教育向上を目指します。</p> <p>以上、方針の各推進項目につきましては、項目数が不揃いであり、内容につきましても精査する必要があるかと存じますが、議論のためのたたき台ということでご検討いただければと思います。</p> <p>参考までに次のページをご覧くださいと、第2次教育大綱を左側に、第3次教育大綱素案を右側に掲載し、表現の違いはありますが、矢印でお示しのとおり、第2次の基本的な考え方を概ね踏襲した上での構成として整理させていただいております。</p> <p>次の3ページ、4ページにつきましてもご参考までに、教育大綱についての市長の思いや各委員からの主要なご意見等について、抜粋して掲載させていただいておりますのでご参照ください。</p> <p>説明は以上です。</p>
早田市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、委員の皆様から、基本理念・基本方針・その項目について追加したいことや修正箇所等のご意見を伺えればと思いますので、よろしく申し上げます。</p> <p>忌憚のない意見をお願いします。</p>
野口委員	<p>まずは、全部ぶら下げてあるので、この辺は整理されることと思います。</p> <p>前回の会議の時に、人口減の時代に新しい地域づくりに向けて社会教育に力を入れていかなければならないのではないかと話しました。</p> <p>どういった形で社会教育がその役割を果たせるのかということで、いろいろご検討されたと思いますが、それがストレートには出ていないというふうに思います。</p> <p>国の答申の中身について、こういうものかと思いがちですが、その中につながりづくりというものがありました。人づくり・つながりづくり・地域づくりのつながりづくりは大事であると思いました。これだけ人口が少なくなっている中で、人と人、地域と地域、高齢者と若い人等、そういうつながりがないと地域がもちません。そこは基本に置かなければいけない気がします。</p> <p>そういった意味では、例えば最初の基本理念の中に互いに「感謝し、支え助け合うやまがびと」とありますが、感謝するという言葉の使い方がぴんときません。ここが、「つながり合い、支え助け合う」のようにお互いのつながりを入れたほうが良い気がします。</p> <p>次に、基本方針Ⅰの中で、新しい文化を創造するとありますが、ここは少し重たい気がします。今までやってきたことをきちんと継承することすら難しい段階ですので、それを創造するとなると非常にハードルが高いと思います。それでも、やり</p>

	<p>まずと言って、本当に気概を持って、項目③のような文化芸術活動に積極的に参加し、新しい文化の創造・発信について本気で出来たら、或いは市長部局の事業もここに含めてやるということであればいいかと思います。これは、教育委員会だけでは出来ないと思いますので、市長部局も巻き込んでやるということであれば、それに向けてどういうことが出来るかしっかりと検討していただきたいと思います。</p> <p>次に、基本方針Ⅲの世界にはばたく人材の育成とありますが、私はこの世界にはばたくという言葉が、あまり好きではなく、別に世界にはばたかなくてもいいのではないかという気がしており、そう思う方もたくさんいらっしゃいます。</p> <p>ただ、大事なことはSDGsでもそうですが、世界的な視野を持たないといけないことは確かです。鹿北中学校でも一生懸命やられているように、世界的にはこうで、その中で自分たちはこうだよというような世界的視野をもった人材の育成ということであればすんなりきますが、世界にはばたかなくてもいいのではないかと思います。</p>
野中委員	<p>最初の感想ですが、資料は楽しく読ませていただきました。大綱の変えられた部分について市長の思いをどのように入れてあるかということで、変わっていくことはとても大事なことだと読みながら感じたところです。</p> <p>問題は、基本方針を設定して方向性が定まった先の部分です。そこから先にどういうふうを実現していくのかという具体策が最も重要になります。</p> <p>整理されている内容につきましては、気持ちが出てくる気がして、とてもありがたく思ったところです。</p> <p>気になるところは、基本理念の古人（いにしえ）に学びということですが、これまでは山鹿学という言葉を使って学習してきました。山鹿学という言葉が使われていないことについては構わないですし、今後も山鹿学は継続して推進していくことになろうかと思います。ただ、先ほども触れられていましたが、「新しい文化を創造する」という言葉はとても美しく輝いて感じられるのですが、現実面としては山鹿市の文化活動についてもたくさん課題を抱えています。まず、文化活動の拠点となる部分があり整理されていません。公民館活動もだいぶ盛んにはなってきましたが、他の市町村のようにコミュニティセンターとしての地区公民館を設けて、そこに主事さんを置くという形にはなっていません。何より心配なのは、旧山鹿地区は公民館をもっていない。そこにありますと言われますが、それは公民館の役割を果たしていないものです。文化活動されている大人の方から、いろいろご意見を賜いますが、もっと大人が公民館活動を活発にできるような仕組みが成り立っていません。そこにもってきて新しい文化の創造というのは、気概として感じるのはよいのですが、言葉だけに終わりはしないかと危惧しています。</p> <p>野口委員の意見を聞いて思ったのですが、はばたくという言葉は少し強いと思いました。私は昔から自分の存在が世界とつながっている、地球とつながっている、生命体としてつながっているということを、教育経営をする時点で必ず視野に置いていたのですが、「はばたく人材」と規定されてしまうと、心のどこかに苦しいものを感じてしまいます。</p> <p>地球上の一員として、生物の一員としての自覚、地球人としての自覚といえますか、自分に還ったこと言葉に出来ないかと思いました。</p> <p>また、前の大綱を作る時もあったかも知れませんが、項目に番号が振ってありま</p>

	<p>す。番号というものはどうしても序列がでます。重きを置く部分はどこかというように感じて①は重くて③は軽いという印象を与えてしまうので、表記的には考えられたほうが良いと思います。</p> <p>今までの大綱もしっかり受け継いで、新しいものを加えて、また先に一步踏み出せるきっかけになると思い読ませていただきました。</p>
上田委員	<p>前会議の私たちの意見を基に、よく整理していただいたと思います。</p> <p>前回、私はSDGsとESDについてお話をさせていただきました。持続可能な社会を創るための目標としてはSDGsで資料もいただいていますので十分わかると思いますが、教育といった場合には、やはりESDをしっかり理解しておかなければSDGsにつながっていかないのではないかと思います。</p> <p>持続可能な社会を創る担い手づくりとしての教育とはどういうものかということ踏まえて、基本方針の土台として考えていったほうが良いと思います。</p> <p>例えば、世界にはばたく人材の育成とありますが、ESDについてここを見ますと国際理解教育となっています。ですから国際をいかに理解して、国際との交流を子どもたちにどう実践させていくのかというあたりが大事になっていくのかと思います。国際交流といった場合に、お互いの国を知る、お互い文化歴史を知って、どういうつながりができていくのか。先ほどもつながりが出ましたが、ESDからしますと、全てつながりになります。4つの基本方針が出ていますが、すべてつながっていくということです。</p> <p>また、基本理念で「古人（いにしえ）に学び」とありますが、何をどう学ぶのか疑問に思いました。</p> <p>次に、基本方針のⅡには、確かな学力を入れていただきたいと思います。一人ひとりが輝くためには確かな学力を付けていただきたいと思います。</p> <p>また、「豊かな心と社会性を育む」という中の社会性については、人とのつながり、関係づくりですが、もちろん基本方針のⅡにも入りますし、基本方針Ⅳの「共に学び、共に励む教育」にも関わってきます。基本方針Ⅰの「ふるさと山鹿の創造」にも他人とのいろんな立場の人との関わりが入ってきます。ですので、その辺を整理していければ良いと感じたところです。</p> <p>前回の会議で市長のおっしゃったコミュニケーションが全てに関わっています。基本方針のどれを見ても全てつながっていると思います。つながりを意識して大綱づくりに取り組んでいけたら良いと思います。</p> <p>ESDについて、どういう捉え方をするのかはお話いただきましたが、もっと学んでおいたほうが良いかと思いました。</p>
立山委員	<p>資料を見させていただいて、市長の思いは随分出ていると感じましたが、私も、野口委員と同じく「新しい文化を創造する」ということが、具体的にどういうことを創っていくのかと思いました。</p> <p>また、前回の会議で、時代の流れが早く、社会適応能力が必要であるということを入れていただきたいと話しました。これまでの「生き抜く力」がどこに出ているのかが分かりませんでした。</p> <p>その他は、全体的に市長の思いが伝わっていると感じました。</p>
堀田教育長	<p>この素案を作るにあたって職員と議論をしてきました。まずは、大きな柱に市長</p>

	<p>の思いをしっかりと入れなければならないということ。そして、教育大綱は市民皆が見た時に、教育部の取り組みや市長の思いが分かるような内容にするということ。絵に描いた餅にならないように、実践できること、これは必ずやり遂げようという項目を入れるということです。</p> <p>人権に関して話しがありました、市長の思いを聞いていましたので、「多様性を認め、互いを尊重し合う心の育成」を入れています。全部関係していますが、SDGsについても、教育に絞ったときに貧困を終わらせようということです。山鹿の教育で一番の重点的なことは貧困の子どもたちを救うことです。2年前から立ち上げています。厳しい子どもたちを夏休みも学校に呼んで、力をつけさせるようなこともやっています。</p> <p>いろんなところから質問がきても、実際にやっていますという項目を並べるようにしています。今、ご指摘をいただいたことで、確かにここは変えたほうが良いと思う項目もありますが、最終的にはすべて達成したい、市長の思いは叶えたいという思いで作ったところです。</p>
野中委員	<p>大綱ですので、あまり細かいところまで入れてしまうと、他のことはどうなのということになってしまいます。そういった目で見てみますと、これは策であって大綱に入れなくてもいいのではないかと項目があります。例えば、インクルーシブの推進は一人ひとりが輝く教育の策として行うものですし、ICT教育の推進も策として行うものです。健やかな体の育成とスポーツ機会の充実も策ではないかと思えます。シンプルに示しておけば、次の策が多々出てくるわけですので、あまり何でもかんでも盛り込まなくてもいいかと思いました。</p>
堀田教育長	<p>おっしゃるとおり大綱ですので、あまり細かいことは書かなくてもいいと思えます。関連している項目がたくさんぶら下がっています。例えば「世界にはばたく人材の育成」にSDGsをなぜ入れたのかと言いますと、家庭的に貧困な子どもたちも全てチャンスがあるということでここに入れました。何でも重なってはいますが、今のご意見を聞きながら整理してもいいのではないかと思いました。</p>
上田委員	<p>ここに出していただいているのは、洗い出しをしたことによって、何が関連しているのか、何が大事なのが分かったと思います。</p> <p>大綱には全て書く必要はなく、方策の一つとして出すべきだと野中委員がおっしゃいましたが、方策の一つとして何があるかは分かってきたと思います。後は、細かいことは書かずに大きいものを幾つか出して大綱づくりにつなげれば良いと思います。</p>
堀田教育長	<p>これまでの教育大綱も学校等どこにでも掲示しています。冒頭にも言いましたが、市民や保護者も見ることになりますので、ある程度、見える化をしておかなければならないと担当は考えています。</p>
野中委員	<p>シンプルにということで前回の大綱も作り、学校にも掲示しましたが、具体的なことをかみ砕いてあれば別ですが、今度の場合は学校だけの話ではありません。</p> <p>大綱は大綱でシンプルなものを作って、策というところを例えばこういうことをしますというように一緒に出してはどうでしょうか。学力充実の話も出ましたが、一人ひとりが輝く教育で学力充実につながる策としては、こういうことをやりますということや、例えばインクルーシブ教育の推進や、健やかな体の育成とスポーツ</p>

	<p>機会の充実を図るために、こういうことをやりますというように別に出していったほうが一般の方には分かりやすいと思います。</p>
堀田教育長	<p>実際に充実しているものがたくさんあります。例えばインクルーシブ教育も5年前に文科省から受けて、すごい成果も出しています。今度の予算に、県下で山鹿だけですが県からの補助金をもらって、幼児教育推進実践研究を行います。これは山鹿のインクルーシブ教育で、山鹿保育園が九州大会、全国大会で発表していることが脚光を浴びて話がきたものです。</p> <p>そういうふう実際に成果をだしていることがたくさんありますが、皆さんが知らないこともありますので、ここに出していくこともいいかと思えます。SDGsの学校の取り組みもありましたが、すごい取り組みをしているので、こういうことを出していくことも大事ではないかと思いました。</p>
野口委員	<p>新しい地域づくりに向けた社会教育について、園田次長にお尋ねします。</p>
園田教育部次長	<p>平成30年に文部科学大臣から中央教育審議会に対して「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」の諮問がなされ、その答申によると、今後の社会の在り方について強く求められています。</p> <p>社会教育を基盤とした、ひとづくり・つながりづくり・地域づくりが大きく言われており、具体的方策としては、学びのきっかけづくりの推進、多様な主体との連携協働の推進として学校を核とした地域づくりの推進、地域学校協働活動の一層の推進、多様な人材の幅広い活躍の推進などの方策を今後推進していく。また、社会教育施設の一層の充実を図る今回の大綱の作成にあたり、地域における社会教育の意義と果たすべき役割について、それぞれの項目に生かしたところです。</p> <p>また、人材の育成についても強く提言してあります。10,000人の市町村にはおこななければならないと規定してある社会教育主事ですが、現在、部長と私の2名のみ有資格であり、委員会以外に数名いますが、今後、計画的に資格取得し人材の育成に努めていきます。</p> <p>さらに、各地区のリーダーが重要になってきますが、すでに菊鹿地区においては地域のリーダーとなる「地域づくり人」研修会を実施しておられます。</p> <p>今後ますます社会教育、生涯学習の重要性は増すものと思われます。</p>
野中委員	<p>基本方針Ⅰの③については、文化芸術活動だけに限られており、内容的に狭すぎますので、取り下げられたほうが良いと思います。</p>
早田市長	<p>山鹿の教育は大変素晴らしいと、私がPTA活動や議員をしている時から感じていましたが、山鹿で育った若者が山鹿から出ていってしまうという問題があります。</p> <p>山鹿で学びたい、住んでみたいと思えるような魅力ある内容を大綱に入れていただければと思います。</p> <p>それでは、次に、その他へ移ります。</p> <p>次回の開催について説明をお願いします。</p>
佐藤教育総務課長	<p>次回開催の件の前にお尋ねしますが、大綱の方針は4項目としてよろしいですか。</p> <p>また、各方針の推進項目数は統一しなくてもよろしいでしょうか。</p>
野中委員	<p>必要とする項目数としてよろしいと思います。</p>

佐藤教育総務課長	<p>次回は、本日いただいたご意見をもとに、修正を加え、市長のご意見を伺いながら、再度、素案の検討を行いたいと思います。お気づきの点がありましたら、ご一報ください。</p> <p>開催時期は、第1回目でお示ししましたとおり、10月に開催予定としたいと思います。</p>
早田市長	よろしいでしょうか。
教育長、委員一同	はい。
早田市長	<p>それでは、本日は大変貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。以上で議事を終わります。</p>
徳永教育総務課企画係長	<p>本日の会議の全日程は終了いたしました。</p> <p>これをもちまして、令和3年度第2回山鹿市総合教育会議を終了します。</p>